

音楽科

単元について

- (単元名) 「リコーダーを吹こう」
(ねらい) ・タンギングの仕方を覚える。

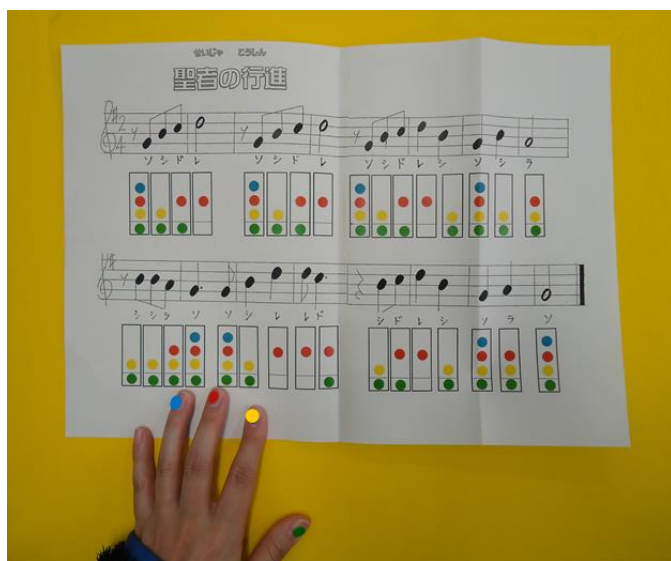


タンギングをする時、舌がどのように動いているかイメージできるように、舌を切り離して割り箸をつけ、動かせるようにした。

一緒に動かしながらタンギングの練習をしたことで、口の中のイメージをもちながら同じように舌を動かすことができ、タンギングができるようになった。

単元について

- (単元名) 「リコーダーを吹こう」
(ねらい) ・「聖者の行進」を演奏する。
・左手の指使いを覚える（ソラシドレ）。

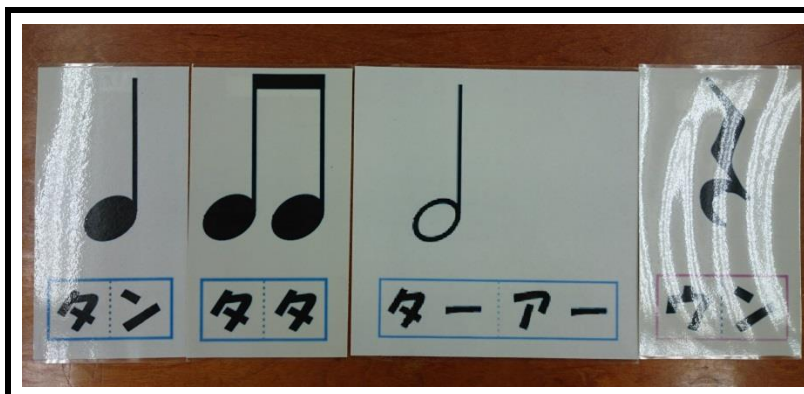


左手で使う指に色を決め爪に貼る。楽譜の下に運指を色で提示した。楽譜、階名、運指を一体化させることで、それぞれの情報をヒントにスムーズに習得することができた。

単元について

(単元名) 「リズム」

(ねらい) ・リズムを視覚でわかりやすく伝えて理解する。



言葉でも言いながらリズムを理解する。

単元について

(単元名) 「いろいろなリズムをつくろう」

(ねらい) ・四分音符、八分音符、四分休符、八分休符のリズムの組み合わせを考え、様々なリズムができることを知る。友だちのリズムを合わせたり重ねたりする楽しさを味わう。



4枚のカードを選んでシートに入れる。1小節分のリズムをつくる。はじめは適当に4枚のカードを選ぶところから始め、少しずつ音符の配置を考えながらリズムを作成していく。その時間につくったリズムをプリントに記入して、自分のつくったリズムを残すようにした。

単元について

(単元名) 「音を鳴らそう」

(ねらい) ・自分で作ることで楽器に興味をもち、積極的に演奏（音を鳴らすこと）ができるようにする。



入れるものによって音が変わるため、音の変化も楽しむことができる。

単元について

(単元名) 「はくにごってリズムをうとう」

- (ねらい)
- ・楽しく拍の流れを感じる。
 - ・リズムに親しむ。



- ・四分音符、休符、八分音符のリズムを身につけるために、一週間「にち、げつ、か、すい、もく、きん、どー」の言葉と合わせて、リズムを打つ言葉と合わせることで拍を意識する。
- ・基本は四分音符できざみ、子ども達と話し合っって休み（休符）と2倍がんばる（八分音符）を入れていく。
- ・2拍のリズムカードを組み合わせ、リズム表現を工夫したり、歌や器楽と共演したり、学習は発展していく。
- ・自分の身体（手や足）を使い、リズム感を養うことは、音楽表現の基盤となる。

単元について

(単元名) 「シンコペーテッド・クロック」を聴こう、感じよう

- (ねらい)
- ・音楽を聴くだけでなく、聴こえてくるリズムと一緒に鳴らすことで、その曲のリズムの特徴をとらえやすくする。

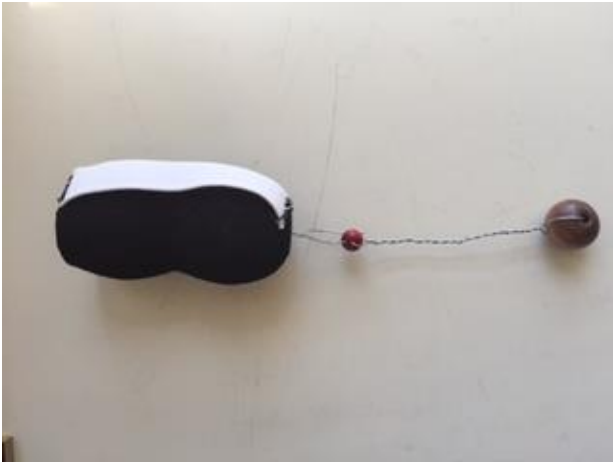


- ・切る竹の長さを調整して、音の高低に変化がつくように作った。
- ・演奏に合わせて一緒にたたく。
→音の高低を意識する。
リズムの変化に気づかせる。
- ・手作り楽器を本物のウッドブロックを両方使用しながら、よりイメージをふくらませた。

単元について

(単元名) 「音を鳴らそう」

(ねらい) ・自分でバチを持って、太鼓や鉄琴などを鳴らす。



- ・クリップとゴムの中に手を入れて握る。先端のビーズ部分を太鼓や鉄琴にあてて鳴らす。
- ・握る力が弱い子どもでも持っていられるように、ゴムをつけた。ワイヤーを使用することで、角度を自由に変えられ、腕の動きに合わせて調整できるようにした。

単元について

(単元名) 「雨降り水族館」

(ねらい) ・目を向ける。

・魚が登場する様子や、色が変わる様子に気づく。興味を示す。



- ・歌に合わせて、魚をポケットに入れたり吊したりする。
- ・傘に貼るだけだと見にくいので、揺れるものも作成した。
- ・大きさ、色など様々に用意し、児童に合ったものを使えるようにした。
- ・雨音を表現できるように、ビーズを付けた。